

認知症高齢者の感情に働きかける非薬物療法の研究 - 玩具、コラージュ、人形を用いた回想法の分析 -

著者	岡野 千影
発行年	2016-03-10
URL	http://hdl.handle.net/10422/11818

氏 名	岡野 千影
学 位 の 種 類	修 士 (看護学)
学 位 記 番 号	修 士 第 209 号
学位授与年月日	平成28年3月10日
学位論文題目	認知症高齢者の感情に働きかける非薬物療法の研究 - 玩具、コラージュ、人形を用いた回想法の分析 -

論文内容要旨

※整理番号	214	(ふりがな) 氏 名	おかの ちかげ 岡野 千影
修士論文題目	認知症高齢者の感情に働きかける非薬物療法の研究 ー玩具、コラージュ、人形を用いた回想法の分析ー		
<p>【研究の目的】玩具、コラージュ制作、人形を用いた回想法と認知症高齢者の反応を分析し、快の感情に影響を及ぼす療法の特徴を明らかにする。</p> <p>【研究方法】1. 研究デザイン：アクションリサーチ 2. 研究対象者：介護老人保健施設に入所中のアルツハイマー型認知症を有する高齢者 6 名。3. データ収集方法 1)介入方法：バイアスを排除するために、3 種類の回想法を下記の順番で実施する。(1)昔の玩具→コラージュ制作→人形療法、(2)人形療法→昔の玩具→コラージュ制作、(3)コラージュ制作→人形療法→昔の玩具 4. ストレス状況の測定方法(1)ポータブル心拍変動測定器にて心拍を測定した。(2)リラックス・キットにてリラックス度を測定した。(3)収縮期血圧、拡張期血圧の値を測定した。(4)サーモグラフィにて顔面の皮膚温を測定した。5. 表情・言葉・行動・しぐさ・態度の観察方法(1)ビデオカメラにて、対象者の反応を撮影した。(2)ICレコーダーにて言葉を録音した。(3)フィールドノートに言葉や態度を記録した。</p> <p>5. 分析方法①ストレス状況、②感情反応、③表情、④言葉について個人の分析と比較、3 つの回想法の分析と比較を行った。①ストレス状況の数値の比較には、対応のある t 検定を行った。</p> <p>【結果】玩具 Mean : B 氏 : $P=0.011$、NN50 A 氏 : $=0.036$、D 氏 $P=0.038$、コラージュ HR C 氏 : $P=0.037$、Mean : B 氏 : $P=0.015$、C 氏 : $P=0.018$、RMSSD C 氏 : $P=0.009$、C 氏 : NN50 $P=0.023$、PNN50 $P=0.043$、拡張期血圧 D 氏 : $P=0.000$、E 氏 : $P=0.004$、F 氏、$P=0.045$、人形療法 HR B 氏 : $P=0.003$、$P=0.009$、Mean B 氏 : $P=0.007$、E 氏 : $P=0.001$、NN50 E 氏 $P=0.049$、リラックス度 : C 氏 $P=0.00$ 収縮期血圧 : E 氏 : $P=0.027$、B 氏 : 拡張期血圧 $P=0.015$ であり有意な差が認められた。昔の玩具も感情反応では、最も快の感情が出現したのは、E 氏、次いで A 氏であり、表情においては、D 氏だった。コラージュでは感情反応ではと表情では、快の感情の出現が多かったのは、D 氏であった。感情反応については、A 氏が最も多く快の感情を表出した。表情において笑顔が多かったのは E 氏であった。</p> <p>【考察】玩具を用いた回想においては、B 氏は言葉が少なくても、身体的データにおいては、ストレス軽減傾向が認められ、快の感情から生じる影響があったのではないかと考える。コラージュ制作では、感情反応と表情では、快の感情の出現が多かったのは、D 氏であった。コラージュ制作が D 氏には、旅行の経験が快の影響を与えたと言える。人形療法では感情反応において A 氏が最も多く快の感情を表出した。A 氏は子ども好きであり、快の感情が出現したためだと考えられる。</p> <p>【総括】今回の回想法において、3 種類それぞれに特徴がみられ、快の感情の出現には認知症高齢者個人の背景や経験などが影響していることがわかった。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)